

私の好きな十首

第164号（十一月号）より

高須 貴子

「春雨じゃぬれてゆこう」は過去のこと雨の日少なく降れば豪雨に

異常なる気象とはいえこの頃は照って干ばつ降って洪水

夏休み入道雲が好きだった今は変則気候を恐れる

音たてて降る雨の中立ち尽くす来るはずのバス待てど待てども

四十度超えたる街に長良川の汽水域あり蛤生きむ

灼けた道冷ますがごとく降る雨に打たれし花の色よみがえる

地下鉄に力士の姿なくなりて名古屋の夏はここから真打ち

信号で並んだ男が連れてきた真夏の髻付け油の香り

エアコンはフルに活動何日もずっと付けてるああ電気代

強風に何かが割れた音響くいつもの夜がホラーに変わる

小泉 智子

江口マサミ

朽原 勝子

西城 燁子

太田美千子

大平 千歳

吉田 誠治

柴田 秀子

林 暁子

木村 香葉

今年の夏の異常気象に関する詠を十首選びました。一、二首目、空梅雨と思いきや降ればどしや降り困った雨でした。三首目、雷雨の予兆の入道雲も異常気象ゆえ警戒しましたね。四首目、雨の中遅れているバスを待つ心細さが伝わります。五首目、桑名の蛤は猛暑に頑張りましたね。六首目、雨後の花色は一際冴えますね。七、八首目、大相撲夏場所、名古屋の人ならではの詠。九首目、誰もが同じ思いだったと思います。十首目、下の句にユーモアがあります。